

Book Preview

富山高校図書館 2024.12



『 中公新書 グリーン戦争 』

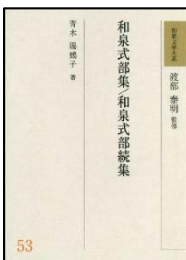
上野 貴弘【著】

人類共通の課題、気候変動。各国はこれを解決すべく、温室効果ガスの排出削減を目標に掲げ2015年にパリ協定に合意した。しかし17年、トランプ米大統領が協定脱退を宣言。中国やインドなど新興国が条件闘争をはじめ、国際協調が動揺している。本書は米国、欧州、新興国の利害が錯綜する政治力学を、産業、貿易、金融、エネルギーの観点から解き明かす。激しい国家間対立の終結を目指して、世界、日本が進むべき道とは。

『 平家物語解剖図鑑 』

野中 哲照【著】

盛者必衰の嫌われ者なのになぜ平家に心を寄せてしまうのか？多くの作者たちが書き足し、書き変えてきた壮大な物語を、図解でわかりやすく解説した入門書の決定版！鎌倉から南北朝期にかけ、多くの作者たちによって練り上げられた『平家物語』。史実をベースにしながらも巧みに時を操り、歴史的人物のキャラクター化がなされてきました。そこには作為があり、政治的背景が隠されています。本書は覚一本『平家物語』をもとに、それらを紐解きあらすじや有名エピソードのほか、当時の武士・貴族の行動や考え方も解説しています。



『 和歌文学大系 53 和泉式部集／和泉式部続集 』

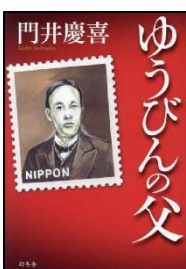
渡部 泰明【監修】

平安和歌の頂点を行く抒情歌人の家集。第61回配本（62冊目）。「あらざらんこの世の外の思ひいでに今一たびのあふこともがな」、「とどめおきて誰をあはれと思ひけん子はまさるらん子はまさりけり」、「黒髪は乱れもしらずうちふせばまづかきやりし人ぞ恋しき」—恋多き女、また愛する人々に先立たれて悲しみも多かった女、和泉式部の数々の秀歌を収めた家集に新注を加えた。

『 身体と魂の思想史 』

田中 彰吾【著】

「わたしはどこまでも身体であり、それ以外の何物でもない」と、近代理性の影である身体にこそ「大きな理性」を見たニーチェ。それに呼応するかのようにフロイトやライヒが着目した症状と性、メルロ＝ポンティの説いた「受肉した意識」としての身体、さらに身体のイメージへと、影であった身体が探求される。二〇世紀終盤には身体性認知科学が、身体と環境の「あいだ」に広がる心を見出し、脳神経の科学と技術は拡張身体を描き始める。「大きな理性」としての身体、その発見の歴史と未来を考察する。



『 ゆうびんの父 』

門井 慶喜【著】

郵便制度の祖と呼ばれ、現在では一円切手の肖像にもなっている前島密。だが彼は土農工商の身分制度の影響が色濃く残る時代にあって、代々の幕臣でも薩長土肥の藩士出身でもなく農家の生まれだった。生後すぐに父を亡くし、後ろ盾が何もない。誰より勉強をしても、旅をしていくら見聞を広めても、なかなか世に出ることができなかった。そんな苦悩を乗り越え、前島は道をどう切り開いたのか。そして、誰もが想いを届けられる仕組みをいかにしてつくったのか。挫折の数だけ人は強くなれる。一枚の紙片が世界につながる、「ゆうびん」を生んだ男の物語。